

第1回 日タイ観光WG

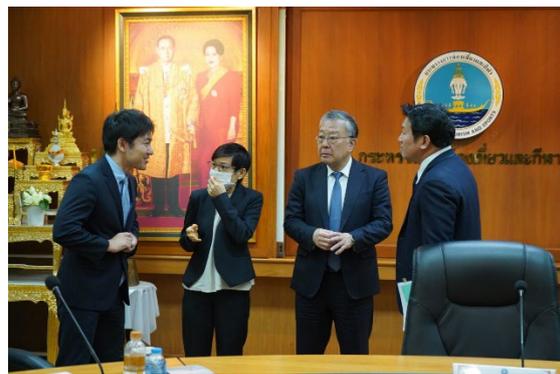
日時: 令和5年12月21日(木)9:30 ~ 11:00(現地時間)

会場: 観光スポーツ省2F会議室(対面・オンライン併用)

出席者:

(タイ側)観光スポーツ省: モンコン次官補【共同議長】、パッタナシリ観光部長、パーヌパーク国際部長、TAT(タイ政府観光庁): パウウィニー東部アジア副部長、DASTA持続可能な観光のための指定地域管理局: クサダ氏、TCEB(コンベンション・エキシビジョンビューロー): プリパン上級副局長(オンライン参加)、TSRI(研究開発推進機関「タイ科学・研究・イノベーション」)スパワディ上級専門家(オンライン参加)

(日本側)JTTRI-AIRO: 奥田専務理事・AIRO所長【共同議長】、富田AIRO次長、観光庁: 河田観光戦略課長(オンライン参加)、大使館: 山川書記官、JNTO: 川崎MICEプロモーション部長(オンライン参加)、土居バンコク事務所長、



議事概要:

1. 開会挨拶

(1) モンコン次官補

- ・ AIRO開設以来、協力関係を強化してきたが、2023年2月にシンポジウムを開催。持続可能な観光の実現を目指し、実務的かつ学術的に観光の諸課題を議論するために観光WGの設置で合意。

- ・ 今後観光分野での協力分野の方向性、深化をお互いに示しながら、貢献していきたい。日タイは互いに重要な観光市場。戦略的パートナーシップの一分野として、観光分野でも協力を深化させていきたい。

(2) 奥田専務理事

- ・ 本WGでの持続可能な観光の実現、重層的かつ広範にわたる人的・文化的交流の実現に向けた議論が、今後日本・タイ両国が観光・交流を進めていく上での貢献につなげていきたい。

2. 出席者自己紹介

3. 説明及び議論

(1) 説明

- ・ 日本側事務局よりWG設置の背景、目的、第2-5回目WGの議題案、メンバー、スケジュール等について説明。

(2) 議論

① 全体のテーマ

- ・ 「地方における観光収入」に関して、大都市だけでなく地方部の観光収入についても研究している。平日旅行や学習を目的とする「Meaningful Travel」もプロモーションしている。また地方部では交通の便が悪いところもあるが、昔ながらの伝統を楽しんでもらえるような観光も推進中である。
- ・ 「観光の円滑化」に関して、「観光人材の育成」の追加も検討してもらいたい。例えばタクシーやトゥクトゥクのドライバーなど、サービス業に従事する人たちを対象とする育成が重要。
- ・ 「持続可能な観光の実現」に関して、カーボンニュートラルツーリズムに関するアプリケーションを作成しており、それにより削減されたカーボンが取引できるようになっている。
- ・ 「Health and Wellness Tourism」というテーマに関する知見について、ぜひ当WGの中で今後共有させていただきたい。
- ・ 「観光政策」に関し、観光税、タイ観光ボランティア、(日本人・欧米人などの)タイ長期滞在者を対象とした取組について対象としたい。(ロングステイヤー向けのHigh-value Tourism、ソフトパワー政策に則った質の高い観光資源の発信、アクションリサーチの展開などについて説明。)
- ・ CBT(Community Based Tourism) Thailand Standardは地域の観光を評価するスタンダードであり、GSTCに合致したものである。また、Creative tourismにも取り組んでいる。
- ・ MICE分野は日本と連携したい。現在MICEシティーは大都市及び地方都市を含め10県ある。

② 第2回目のWGに関して

- ・ 次回のテーマは「ソフトパワー」に焦点を当てるのはどうか。引き続きタイ側・日本側の事務局間で調整してほしい。

- ・ 日ASEAN特別首脳会議において、日本人投資家によるタイへの投資誘致に加え、タイ・セター首相がソフトパワーの活用についても言及しており、今後のWGでもその点についてはディスカッションすべきと考える。

③ WG出席者

- ・ テーマに関係する専門家又は研究者がいれば、是非招待してこのWGに出席していただきたい。

④ 今後の進め方

- ・ 次回のテーマについては両国の事務局で相談して決定し、後日フィードバックをお願いしたい。

4. 閉会挨拶

(1) モンコン次官補

- ・ 宿利JTTRI会長及び国交省関係者にタイの観光分野での日本側の貢献に感謝。本WGの開催によりAIROとの協力関係が深化し、観光分野でのタイ日の協力を最大限のものにしていきたい。

(2) 奥田専務理事

- ・ 「持続可能な観光の実現」に向け取り組むべき課題については、日タイ両国のみではなく、広くASEAN各国ひいては世界的にも共通する課題であると考える。よって、当WGの議題取りまとめに関しては両国のみならずASEAN各国の関係者に共有することも視野に入れていきたい。どのような形で行うかについては引き続き関係者で相談していく。

以上